

例年になく華やかに - - 日民協第44回総会終わる

第44回定時総会の報告

新たな門出を予告するような華やかな総会が、7月16日(土)午後、東京・日比谷松本楼で開催されました。日民協第44回総会。議長団に南典男、有村一巳の両氏を選び議事を進行。

開会の挨拶に立った鳥生理事長は、本総会の特別の意義として、憲法を擁護する宣言の採択、「法と民主主義」400号の顕彰、相磯法民賞の設定等について述べ、新たな決意で法律家としての責務を果たそうと呼びかけました。



続いて澤藤事務局長から、活動報告と方針の提案が行われました。

報告と方針は議案書に、平和と独立の課題、憲法・司法をめぐる状況、人権と民主主義の課題、法律家運動と日民協の役割など、詳細に提起さ

れていることから論点をしばった提案になりました。

日民協の主要テーマである司法と憲法について、「司法改革は一つの節目を終え、一連の関連法が成立した。司法改革の評価と運動論では、見解の対立もあったが、保守政党や財界が主導し、その利益に奉仕する制度づくりや法曹養成を狙ったものとの認識ではほぼ一致していた。今後はその運用面の適正化のために広範な力を結集すべきだ」と強調された。

さらに、「日民協としての今後の重点は憲法問題に移る。理念を現実にあわせる必要が強調されるが、改憲を許すことは戦争や武力行使を政策選択の一つとしうることであり、戦争をしないことを前提としている日本の法体系を根底から作り変えることである。

明文改憲阻止の一点で多数派を形成していくことが大事。憲法運動は非常な勢いで広がっており、形態と中身は違うが、安保闘争を思わせる壮大な運動として発展しつつある。法律家の共同組織としての日民協もこの重大な運動の一翼を担っていく」と方針を述べました。

各分野の活動として、「法と民主主義」編集委員会の成果と今後の方針について、編集委員長の佐藤むつみさんから、



ホームページの充実と活用について淵上隆さんから、政府と警察の治安対策について国民救援会の山田善三郎さんから、それぞれ報告と問題提起が行われました。また、会計報告で奥津年弘さんは、「日民協の財政運営はある程度落ち着いてきたが、高齢、不況が原因の退会も続いている。会員・読者の増加と会費回収にご協力を」と訴えました。

質疑・討論のなかで、鷲野忠雄さんは、「世論調査によると憲法問題への国民の関心は14位にあり、年金・医療・介護保険・生活の安定など国民の切実な要求と関連付けて憲法をたたかう重要性、国会と国民の大きな落差は小選挙区制に



起因しているので、選挙制度改善のたたかひが必要だ」と強調、「行脚の会」事務局長の猿田さんは、会の趣旨と「9条の会」などとの共同行動の重要性を述べ、明文改憲阻止への決意を語りました。

活動報告と新年度方針、会計報告と予算案はほぼ全員の賛成で採択されました。

澤藤氏から提案された人事案件も全員一致で採択され、鳥生忠佑理事長(再任)海部幸造事務局長(新任)を中心とする新執行部が門出をしました。

最後に「平和と立憲主義の憲法を擁護する宣言案」(5頁掲載)が田部知江子さんから提案され、若干の字句修正のうえ全員一致で採択されました。

新執行部を代表して新事務局長の海部幸造弁護士があいさつ。以前から事務局長にとお誘いを受けており、大きな事件が終るまでは無理と断ってきたが、事件が和解で着し、口実がなくなったと笑わせながら、06・07年の憲法運動最大の山場に向け、所属事務所や諸先輩のご指導・ご援助のもと、執行部一同精一杯がんばるのでよろしく、との力強い決意表明があり、すべての議事を終了しました。



第1回 「法民賞」授賞式



休憩をはさんで、第1回「相磯まつ江記念・法と民主主義賞」授賞式。

略称「法民賞」の実施要領と選考経過について小田成光氏と浦野広明氏から説明があり、「法民賞」に一橋大学教授の渡辺 治氏、「法民」特別賞に、弁護士報酬の敗訴者負担

に対する全国連絡会議、とイラク拘束事件・救出活動弁護士グループが選ばれ、鳥生理事長から、賞状と副賞として金一封が送られました。

受賞者に対して、総会参加者から大きな拍手が送られ、受賞者を代表して渡辺 治氏が「記念講演」(要約は下記のとおり)をされました。

こうして、第44回総会は、新たな展望を切りひらく諸議案と歴史的な授賞式を終え、会場を変えて「法と民主主義」創刊400号お祝いの集いに移りました。

(文責 有村一巳)



「法と民主主義」賞 授賞記念講演から(要約)

改憲阻止運動における法律家の役割を訴えます 渡辺 治(一橋大学)

第1回「法民賞」をいただいたことに感謝申し上げます。法と権利、法と民主主義という研究テーマに関して、なにがしか社会運動へ貢献したという評価をいただいたことを、心からうれしく思っています。

私が日民協に初めて関わったのは30年前のことでした。東大社研の助手になつたとき、利谷先生からのお勧めがあつて編集委員会に参加しました。毎月の編集委員会は大変刺激的でおもしろく、私にとって研究と運動の接点を経験した最初の出来事でした。あれ以来発刊を続けた「法民」が400号を迎えたのですから、感慨深いものがあります。

私の受賞は、改憲へ向けての深刻な情勢ゆえのことだと思います。私は、「改憲反対」を言いつづけてきましたが、あらためて今、容易ならぬ時代がやってきたと思つてます。

いま、日本の支配層が求めているのは、軍事大国化と構造改革です。その実現を阻む障碍となっているのが憲法です。だから、改革に邪魔な憲法の「改正」が叫ばれています。

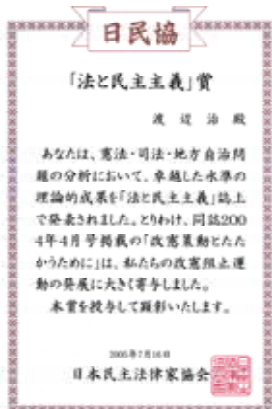
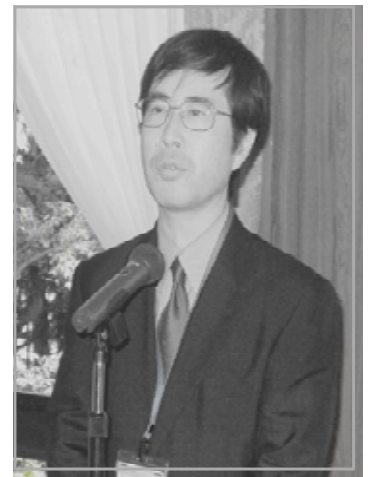
私たちが本気で改憲を阻止するにはどうしたら良いか。基本的に

は憲法の明文改悪を阻止するために大きな統一の輪を作ることです。「九条の会」はその一つです。憲法のもつ意味を本能的に感じる市民が、なんとかせねばとたちあがっています。

しかしそれだけでは不十分。憲法改悪を促している軍事大国化の具体的な動きや構造改革もたらす一つ一つの制度改悪に反対する運動にも取り組まなければなりません。運動に対する弾圧とも闘っていく。これらが大きく合流した時に、憲法改悪阻止が実現する。

そのたたかいの中で、憲法とこれに基づく法的権利を武器として、諸運動に参加しているのが日民協であり、「法と民主主義」だと思ひます。堀が埋められたあとに決戦があるのではなく、堀を埋めさせない諸運動が大切なのです。

改憲を阻止する上で、法律家の、法と憲法を武器にした闘いの重要性を訴えて、私の授賞に際しての挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。



「法と民主主義」創刊400号お祝いの集い

総会と「法民賞」授賞式終了後は、松本楼2階に会場を移して「法と民主主義」創刊400号お祝いの集いが行われた。参加者はあらかじめ事務局によって割り振られたテーブルに向かい、「さて、同じテーブルの人は？」とちょっとドキドキしながら着席する結婚披露宴形式での形態。1テーブル10人前後、8テーブルに分かれた。司会は前半が法民編集長の



佐藤むつみさん(弁護士)、後半が編集委員の私、清水雅彦(明治大学)が担当しました。

まず、開会のあいさつを

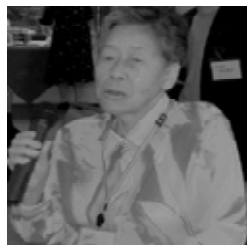
鳥生忠佑理事長が行い、乾杯の音頭は環直弥さん(弁護士)が行った。続いて、軽快な佐藤さんの司会の下、来賓のあいさつ。青法協からは弁学合同部会議長の井上聡さん(弁護士)、「法民」特別賞受賞者のイラク拘束事件・救出活動弁護士グループからは小坂祥司さん、猿田佐世さん、田場暁生さん、田部知江子さん、土井香苗さん、中川重徳さんがステージ上に並んで一言ずつ、弁護士報酬の敗訴者負担を考える全国連絡会議からは清水鳩子さん、清水誠さん、甲斐道太郎さんがあいさつを行った。



次に、ソプラノ歌手の仲山百合子さんとピアニストの伊奈波智美さんによるミニコンサート。仲山さんの明るい歌声が会場に響き、シックな雰囲気と窓からは緑が飛び込んでくる会場にピッタリのひとときとなった。



しばし素敵な料理とお酒を楽しみ、テーブル毎で懇談の時間を過ごした後、司会役の私がマイク片手にテーブルを回るリレートークの時間に。様々な職種の老若男女が集う場となったが、参加者が70名を越えていたため、なかなか顔を合わせる機会がない方を中心に司会が発言者を指名しながら発言をお願いしていった。まずはトップバッターとして相磯まつ江さん(弁護士)が、日民協に寄付をされた立場から日民協への期待と想いを熱く語られた。続いて、矢



田部理さん(弁護士)、松浦基之さん(弁護士)、牛山積さん(早稲田大学)、伊佐千尋さん(作家)、小池振一郎さん(弁護士)、横田力さん(都留文科大学)がそれぞれの近況報告や今後の活動についての提言、日民協への想いを語った。このトークの中では、90歳を越えてもお元気の森川金寿さん(弁護士)や、9条を世界に広めるために積極的に活動している若手法律家の



笹本潤さん(弁護士)と田部さんからの発言や、2人ほかイラク弁護士グループと同じテーブルで懇談



する中で若手法律家の取り組みに感動された星野安三郎さん(東京学芸大・立正大学名誉教授)からは「皆さん、この人たち(イラク弁護士グループ)が弁護士だと信じられますかあー」との



出だしで始まる楽しい発言もあった。そして、リレートークの最後は、日民協を陰でしっかりと支える事務局・協力者から自己紹介を兼ねて一言。この4月から新しく事務局に入った織田かおりさん(一橋大学の浦田一郎さんの元ゼミ生)、織田さんが入るまで事務局を支えた富森花恵さん、日民協ホームページの管理や法民の編集実務に携わっている中村浩さん、同じく協力している滝沢政彦さん、そして最後は林敦子さんがスタッフ紹介を元気よくしめた。



この後、伊奈波さんの演奏と仲山さんの指導により参加者みんなで合唱。最後は今回の総会で7年間にわたる事務局長職を退いた澤藤統一郎さんから閉会のあいさつ。ここでは、ホームページの事務局長日記を終えるという宣言がなされるが、少し休んだ後に名称を変えてコラムを続けると説明。参加者一同ホッと胸をなで下ろした。今後は海部幸造新事務局長が引き継いでくれるでしょう。



あっという間の2時間、緑と音楽と落ち着いた雰囲気の中での懇親の場で、日民協の新たなスタートを誓った1日となった。(文責 清水雅彦)



事務局長退任のご挨拶



日民協は、
改憲の嵐に抗する
強い草となれ

澤藤統一郎（弁護士）

もっとも大事な時期に、もっともふさわしい人が現れる。

改憲阻止運動の正念場に、もっともふさわしい新事務局長が登場した。私は、安心して後事を託することができる。

私は、本来組織活動には向いていない。得意でもない。これまで四苦八苦だったが、なんとか任務を全うした。新事務局長には、2年を限っての任務との執行部合意がある。理事長も事務局長も、期間を限って全力投球してもらって態勢を保障しなくてはならない。

今、疾風が吹いている。私たちは勁草でなくてはならない。

改憲の嵐は目前、既に空気は不穏だ。イラク派兵・有事法制の整備・「日の丸・君が代」強制・好戦教科書採択・教育基本法改悪・些事を捉えた刑事弾圧。その集大成として、明文改憲がたくらまれている。

日民協は、しなやかで強い草として、この風に抗しななければならない。鳥生理事長・海部事務局長の新執行部体制を支えて、私も役に立ちたいと思う。

なお、私は、日民協サイトに、「事務局長日記」を書き続けてきた。800日を超える期間、毎日欠かさず連載した。事務局長退任とともに、このコラムは終了したが、新執行部の了解をいただければ、日民協サイトの一隅に装いを新たにされたコラムを書かせていただければと思う。



事務局長就任のご挨拶



歴史の大きな節目に当たり、
憲法改悪阻止のために
日民協の役割を果たそう

海部幸造（弁護士）

この度、はからずも事務局長を勤めさせて頂くことになりました。

私は東京の憲法フェスティバルに関わり、また青法協や地域での憲法運動にたずさわってきましたが、日民協との関わりは日が浅く、未だ十分に理解できていない点が多々あると思います。ただ、日民協が当然のことではありますが、青法協とはひと味もふた味も違うことは総会一つを見ても強く感じられるところで、こうした団体に関わらせて頂くのは、大変だろうとの想いと、楽しみであるとの思いが相半ばしています。

自民党はいよいよ今秋改憲草案を発表するとして着々と準備をすすめ、早ければ2007年夏の参議院選挙の際に改憲の国民投票をもくろんでいます。憲法が改悪されても、それを阻止して国民が憲法を改めて選び取っても、社会の大きな転換であり、私たちは今、そうした大きな歴史の節目に立ち会っているとの感を強くしています。

現在、私たちが先の15年戦争へ突入してゆく時代のうねりとその時代を生きた人々の生き様を思うように（半藤一利氏の「昭和史」などを読んでいてそうしたことをひしひしと思わされます）、今、社会の大きな転換点の中で、私たち一人一人の生き方が問われているのだと思います。

こうした中で、日民協は、改憲阻止のために本当に幅広い法律家の結集に役割を果たせるよう力を尽くしたいものです。

私自身、自らの浅学非才ぶりは自分自身が一番よく知っているつもりなので、歴代の有能な事務局長の跡を継いでの仕事は荷の重いものがありますが、こうした時代の中で、こうした役回りを仰せつかった事を自分なりに受け止めて、日民協がその役割をより果たせるように、努力だけはしたいと考えております。

ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、是非ともご指導、ご支援、ご協力を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。